

富山 尚 氏 学位審査結果の要旨

主査:野村 昌作

副査:中邨 智之、権 雅憲

自己免疫性膵炎 (AIP) は、血清 IgG4 高値、局所での IgG4 陽性細胞の浸潤、ステロイド有効性を特徴とし、通常経口プレドニゾロンで開始される。また、新しい国際診断基準にもステロイド反応性が含まれている。申請者 (富山 尚) は、AIP に対する初期治療としてステロイドパルス療法の短期的な効果について比較研究した。対象は、AIP21 例であり、うち 11 例がステロイドパルス療法施行例である。治療 2 週間後の採血所見では、ALT 値および γ -GTP 値はステロイドパルス療法群で治療前と比較して有意な改善がみられたが経口ステロイド群では有意差は得られなかった。画像所見では、胆管狭細像は両治療群ともに有意に改善がみられたが、経口ステロイドでは改善しなかった胆管狭窄がステロイドパルス療法により改善した症例がみられた。AIP に合併した糖尿病は両治療群ともに 2 か月後の改善に有意差は得られなかったが、ステロイドパルス療法群において 6 か月後の有意な改善が得られた。本研究の結果から、ステロイドパルス療法は AIP に対する有効な初期治療であり、癌との鑑別に難渋する症例や、経口ステロイド療法に不応性の下部胆管狭窄症例に対しても、ステロイドパルス療法を推奨する意義があることが新知見として示唆された。以上より、本研究は学位に充分値すると判断した。